

No.66 ジョナサン・ボロフスキー

Jonathan Borofsky

「ブリーフケースを持った男」

北川フラムさんのコラム / 立川市市報記事より

ファーレ立川の西方の位置に立っている、カバンを持ち、帽子をかぶった 8.5 メートルの鋼鉄の男。夕陽に向かったその姿が、黒い御影石に映って美しい。この厚さ 65 ミリメートルの鉄板の像は、あたかも昔の毘沙門天のように、西方の彼方（かなた）を望み、このファーレ立川のアートたちを鎮護しているかのようだ。

この地域のアートのほとんどは建物の機能部分を作品にしているが、そのほか、この像のように街の機能を果たしているものもある。

ボロフスキーの作品は一種の自画像であって、カバンにデッサンを入れて、日々働いている自らの姿をここに設置している。

作家のメッセージ / 日本住宅公団（現：UR 都市機構）「ミニ通信」より

あるけれども、ない
鋼鉄の労働者の影
手の中の精神